

あつたゆでん
厚田油田

厚田油田は、石狩市厚田区^{しつぷ}聚富で昭和6（1931）年から昭和36（1961）年まで操業していた油田。累計生産量5,164kL。

古くから海岸線一帯および海中に油徴（油のしみだし）^{ゆちよう}がみとめられており、安政5（1858）年に、幕府の役人荒井金助が、厚田望来の海浜に石油の湧出することを知り、部下を調査に当たらせ、山中における油田を発見しました。

明治22（1889）年頃に手掘りされましたが産油には至らず、大正13（1924）年に日本石油株式会社により、深度1,104mまで試掘が行われましたが、これも不成功に終わりました。その後、昭和6（1931）年、同社が再び試掘したところ、深度1,105mで、初日0.4kLの産油に成功。ここから昭和10（1935）年までに計11坑を掘削しました。しかし、油田の延長が海中に達したため、坑井掘削の余地がなくなり、油田開発はここまでとなりました。

この油田の産出量は少なく、最多の坑井でも最初に日産1kLの採掘があった程度で、採掘量は徐々に減少し、全体で1日にドラム缶2本分（400L）ほどと言われています。

現在は構造物は残されていませんが、コンクリートで塞いだ油井跡^{ゆせい}が残り、海岸沿いの草原の中には所々石油の油徴を見ることができます。最も目立つ油徴は直径30mに達し、水たまりのように石油がたまっている様子や、天然ガスの気泡を見ることができます。

なお、厚田油田と原油の起源を同じくする油田として、約5km内陸の石狩市八の沢地区に、北海道最大規模の油田、石狩油田がありました。

（安田秀司）



厚田油田(昭和30年代前半、写真:石狩市所蔵)

- (1) 石狩町（1985）石狩町誌中巻1. 石狩町.
- (2) 石狩町（1991）石狩町誌中巻2. 石狩町.
- (3) 石狩遺産プロジェクトM（2018）石狩の油田～道内最大級の油田の歴史と石油を生んだ地層～. 石狩遺産2017年度認定3件パンフレット. 石狩遺産プロジェクトM.
- (4) 岩本龍夫（2005）石狩油田史—その開発・技術・生活について—. 岩本龍夫.